

「会見」をめぐるメディア表現から 中国の外交心理変化の一端を見る

その1 「会見」の定義と使用パターン

裴 崢

昨今の中国の経済的発展に伴って、中国に対する世界の注目度が高まり、中国を知ろうとする内外のアンテナもその感度を高めている。こうした状況の下で、中国から国内外に向けて発信される報道は海外における中国のイメージと各国との外交関係に直接、間接に影響を与えている。

一 問題提起

昨年12月、日本では習近平国家副主席訪日の際の中国政府による天皇との会見要請にあたり、首相官邸が皇室の外交公務に関わる従来のルールを破ったとして、話題になっていた。私はこの「異例づくめ」の事態より、一連の外交日程の報道において使用されていた「会見」という表現が気になった。

この会見は12月15日に実行された。当日、たとえば「朝日新聞」、「読売新聞」では、「習副主席、天皇陛下と会見」、「天皇陛下、習副主席と会見 首相指導の特例で実現」とそれぞれ見出しを付け、記事本文では「天皇陛下は15日午前、皇居・宮殿『竹の間』で、中国の国家副主席習近平と会見した」¹⁾、「天皇陛下は15日午前、皇居・宮殿『竹の間』で、中国の『次代のリーダー』とされる習近平国家副主席と会見された」²⁾、とそれぞれ報じられた。

日本では天皇が会見に臨む場合、普通「引見」や「謁見」などの単語を使

¹⁾ 習副主席、天皇陛下と会見（「朝日新聞」朝刊）09.12.15, 1面。

²⁾ 天皇陛下、習副主席と会見 首相指示の特例で実現（「読売新聞」東京夕刊）09.12.15, 1面。

うが、新聞では馴染まないため、「会見」を使っているという。それは本稿のテーマから外れるので、取り扱わないものとする。「会見」は「会談」や「対話」などの類似した用語と比較して具体性を示唆することが乏しく、実務を伴わない外交的、儀式的な面会を意味する目的で使用されるのであろう。原則的には、立場や主客などの関係によって上位と下位、訪問者と被訪問者、ホストとゲスト、すなわち施す側と受ける側という二者の間に成立する行為であるという意味で、「会見する」は他動詞である。したがって、目的語が必要なはずである。「～に会見する」という日本語も確かに存在する。しかし日本語では、「～に会見する」という明確な他動詞の用法より、「～と会見する」と言う方が多く使われている。実に、「と」という便利な助詞のおかげで、「会見する」は自動詞に変身し、ホストとゲストの場合なら両者とも行為の主導者に並び、主客の関係がほやけた表現が出来上がる。

ゆえに上述の2紙とも、「と」の使用によって、一見すると天皇も副主席も「会見」の主語と受け取られる。にもかかわらず「読売新聞」では、「会見された」という動詞活用の丁寧形で動作主の立場を明確にしている。「朝日新聞」では、会見双方の並び順をタイトルと記事で前後入れ替えている。タイトルではゲストを先頭にする一方で、ゲストへの礼儀と記事の注目度を狙い、中身の記事ではホストを先頭にする一方で主客の本来の立場を改めて知らせていると推し量れる。日本語としてはどれも違和感がない。

では中国語ではどうだろうか。中国語は「に、と…」などというような助詞も「する、される…」などという述語の活用もない孤立語であるため、語順が比較的固定されており、語順を換えると文法関係も変わってしまう。そのため、「会見」はあいまいに自動詞になれず、一貫して他動詞として用いられる。たとえば「朝日新聞」のタイトルと記事を「习近平与日本天皇会见」、「日本天皇明仁15日上午在东京皇宫…与中国国家副主席习近平会见」とそのままの語順で表現することは不可能になる。主客の立場が分からなくなり、文法的にも「会見」は名詞とみなせば差支えないが、動詞として見ると不自然である。

「会見」という和文の自動詞的な働きを忠実に処理しようとすればどうなるだろうか。「会見」を「会面(面会する)」と直し、「习近平与日本天皇会面」、「日本天皇明仁15日上午在东京皇宫…与中国国家副主席习近平会面」となる。中国語の「会面」は自動詞なので、これであれば文法的な不自然さが回避できる。また、もし日本語の「会見」を他動詞と見なし、かつ原文の語順のままの表現として中国語に当てはめるとすると、タイトルでは訪日している、いわば客である立場に鑑みて主語となり、「拜会(表敬訪問する)」という動詞と置き換えて、「习近平拜会日本天皇」、記事本文ではそのまま、「日本天皇明仁15日上午在东京皇宫…会见了中国国家副主席习近平」となる。

当然翌16日、「人民日报海外版」においても「会見」のニュースが報じられた。「习近平与日本天皇明仁会见」と題し、「国家副主席习近平15日在北京日本皇宫会见了日本天皇明仁」³⁾と記事にされた。タイトルではゲストもホストも主語、かつゲストの方が先頭に並ぶ順序で、偶然か「朝日新聞」の標題に近いものとなったが、記事本文ではゲストが主語になっている。前日には、時の首相、鳩山由紀夫との会見についても、「国家副主席习近平14日下午在东京会见了日本首相鸠山由紀夫」⁴⁾となっていた。

70年代末、私は大学卒業後3年間武漢市にある湖北省外事弁公室に勤め、日本からの政府訪中団などの接待に多く関わり、直に地域の訪日団とともに日本を訪れることなどもあった。相互訪問の外交的儀式で、当時よく使っていた表現は「拜会」で、日本語では「表敬訪問する」だった。中国はここ30数年来、世界に目を向け、門戸を開き、自ら出ていき、また多くの国々や地域の方々を招き入れるとし、世界との交流を盛んに押し進めてきた。いつの間にか「拜会」も「表敬訪問」もめったに見かけなくなり、取って代わった語彙はこの「会見」なのだ。シンプルな表現で便利なようだが、中国語における「会見」は訪問者やゲスト等の目的語が必要な他動詞である。一方、

³⁾ 「人民日报海外版」09.12.16, 1面。

⁴⁾ 「人民日报海外版」09.12.15, 1面。

日本語の「会見」のような自動詞的な働きもあるのだろうか。また文法関係は正しくても、公式な場においてゲストがホストに「会見」という語感が発生し、あたかもゲストがホストに会ってあげるというような主導的な使い方は妥当なのか、疑問を感じずにはいられなかった。そこで、ここでは政治的な立場からではなく、言語表現そのものを検討してみたい。

二 検討の方法

外交には相互に顔を合わせるだけの形式や談話を交わし合うという形式などがあるが、本稿では前者である外交儀式上の「会見」のみを見ていく。その際、「会見」の同義語「接見」、またより丁寧な「拜会」も併せて比較検討する。中国語の「会見」は日本語の「会見」と異なる意味合いがあるとも考えられるので、さらに日本語の「会見」「接見」「表敬訪問」との比較も必要となろう。なお、中国語には「お目にかかる、お目見え」、また「読売新聞」の記事にもなっている「会見された」や、あるいは「お伺いする」などのような、動詞活用による敬語がないため、この場合、「表敬訪問」に近くて敬意を示す「拝」という字を含む「拜見」「拜访」も「拜会」と同義と見なす。中国語の「晋見、召見」、日本語の「謁見、引見」などについては、限られた場でしか使用しないため、取り上げないこととする。

具体的には、まず上述した中国語の「会見、接見、拜見・拜访・拜会」と日本語の「会見、接見、表敬訪問」について代表的と思われる辞書での定義と用例を総合的に調べ、「会見」の定義をあらためて確認する。その定義を踏まえつつ、さらに中国の新聞記事、たとえば「人民日報」における用語ごとの事例調査を通して、ここ30数年間の当該用語の変移を辿り、その背景を考察していきたい。

三 「会见」の定義

ここで「会见, 接見, 拜見・拜访・拜会 / 会见, 接見, 表敬訪問」について, 日本の『国語大辞典 言泉』, 『類語辞典』, 『大辞林』, 『日中辞典』, 『東方中国語辞典』, 『中日大辞典第三版』, 『講談社中日辞典第三版』および中国の『新华词典』, 『现代汉语词典』, 『汉语同义词词典』, 『汉语常用词用法词典』, またインターネット上の『百度词典』の定義と用例を参照した上で, 「会见」の定義を確認したい。なお, 日中・中日辞典の和訳は原典のままだが, 中国の辞典の和訳は筆者によるものである。

表1 各辞書の定義と用例

【会见・会见】

注	用語	意味	用例	訳文
1	『国語大辞典 言泉』	公式の場合など, 改まった形で人に会うこと。	「元首に～する」「記者～」	
2	『類語辞典』	あらかじめ場所を設定したうえで, 相手に会って, 意見を述べたり相手の質問に答えたりすること。	「首相が記者会団と～する」 >記者～・単独～・～場	
3	『大辞林』	(名) スル 特定の場所で公式に人と会うこと。	「記者～」 「両国の代表が～する」	
4	『日中辞典』	会见, 接見, 晤面。「会见」は多く外交の場で用いる。	首相に～を申し入れる / 総理が代表団と～する	請求会见首相。 / 总理接见代表团。
5	『東方中国語辞典』	[動] 会见する。面会する。(「接見」の類義語として, 筆者注) ‘会见’ は, 主に外交において地位が同等な人同士の改まった会见を表す。	两国总理第一次在北京～ / ～旧时老友 / 两国总理在联合国亲切～	两国总理是北京において初めて顔を合わせる。 / 旧友と会う。 / 両国の総理は国連で親しく会見した。
6	『講談社中日辞典第三版』	動 会见する。(多く外交の場での会见をさす)	「总统～三国大使」	大統領が3カ国の大使と会见する。→類義語 接見
7	『现代汉语词典』	动 跟别人相见 (人と会う);	～亲友 友好的～	親友と会う 友好的会见
8	『汉语同义词词典』	着重于彼此相约而见面。不分会见者和被会见者。会见的双方多为地位, 辈分相同的人, 也可以地位, 辈分不同。不用于被动句 (主に相互約束した対面を指す。会见者と被会见者と分けない。会见双方は地位, 世代が同等な場合が多いが, 地位, 世代が同等でない場合でもよい。受身は使わない。)	… (我) 也没单独会见过总理。但是总理对文艺工作的关怀, 指导, 我是知道的, … (臧克家<会面无多忆念多>)	… (私も) 単独して総理にお会いしたことはないが, 文芸界に寄せる総理のお心遣い, お教えをよく心得ている。(臧克家「対面少なし, 思念多し」)

注	用語	意味	用例	訳文
9	『百度词典』	[meet with] 跟别人相见。有时用于外交场合。汉英词典中的解释：to meet with; to have an interview with; to interview 国际上一般称接见或拜会。凡身份高的人士会见身份低的，或是主人会见客人，这种会见一般称为接见或召见。凡身份低的人士会见身份高的人士，或是客人会见主人，这种会见一般称为拜见。我国一般统称会见。	1 安排在两点钟会见一位朋友（2時に友人に会うことになっている）2《光明日报》1989.2.26：“国家主席杨尚昆今天晚上在人民大会堂会见了布什总统（国家主席楊尚昆が今晚人民大会堂でブッシュ大統領と会見した）。	人と会う。外交の場で使う時もある。…国際舞台では一般的に接見或いは表敬訪問という。身分の高い人が身分の低い人に会う、或いはホストがゲストに会う、このような会見は一般的に接見或いは引見という。身分の低い人が身分の高い人に会う、或いはゲストがホストに会う、このような会見は一般的に拝見という。我が国は一般的に総じて会見という。

【接見】

注	用語	意味	用例	訳文
10	『類語辞典』	①身分・地位の高い人が、訪問者と会うこと。②法律で…	「首相が新任の大使に～する」	
11	『大辞林』	〈名〉スル ①客に会うこと。特に身分の高い人が公の立場から客を引見すること。(②略)	「大統領が外国大使を接見する」	
12	『東方中国語辞典』	(「会见」は、筆者注)主に外交において地位が同等な人同士の改まった会見を表す。「接見」は、一般に地位の上の者が下の者に会うことを指す。		
13	『講談社中日辞典第三版』	高位の人が公に人に会見する。接見する。	～外賓	外国の客を接見する。類義語 接見 会見
14	『現代汉语词典』	动眼来的入见面（多用于主人接待客人或上级会见下属）/ 來客と会う（多くはホストがゲストを迎え、或いは上位の人が下位の人と会見する場合に使う）。	～外賓 ～与会代表	外国の客を～する 会議の代表を～する。
15	『汉语同义词词典』	着重于接受对方求见的要求而与之见面。有接见者与被接见者之分，接见者多为领导，被接见者的地位，辈分多比接见者低，或是来访问的人。可用于被动句。		主に相手から要望される会見を指す。接見者と被接見者がある。接見者は多く指導者であり、被接見者の地位、世代は多く接見者より低く、あるいは来訪者である。受身も使用できる。
16	『汉语常用词用法词典』	地位高者眼来访问者见面。多用于外交场合（地位の高い人が訪問者に会うこと。多く外交の場に使う）。	总统的（接見）是我们事先没想到的…	總統的（接見）は、私たちが事前思えなかったことだった…

注	用語	意味	用例	訳文
17	「百度词典」	[receive; give an interview to; have an interview with]: 在正式场合会见级别较低的来访者 汉英词典中的解释(正式な場でクラスの比較的低い来訪者に会见すること。中英辞典の解釈): 1. to receive (someone of lesser status); to grant an interview	《〈艾青诗选〉自序》：“不久，我得到周恩来同志的接见。”	『艾青の詩選』自序：「まもなく、私は周恩来総理にお会いすることができた」

【表敬】

注	用語	意味	用例	訳文
18	「類語辞典」	敬意を表すこと。	「明日は官邸を訪ねて首相を～する予定になっている」 > 訪問	
19	「日中辞典」	表敬	～訪問	表示敬意的訪問；拜访；[多く外交の] 拜会；拜見。

【拜見】

注	用語	意味	用例	訳文
20	「東方中国語辞典」	[動] <敬> 訪問し面会する。	青年作家们～了中国作家协会主席。	青年作家たちが中国作家協会主席を訪ねた。
21	「現代汉语词典」	动 拜会；会见（从客人方面说）；/ 表敬訪問；会见（客から表現する場合）	～尊长 ～恩師	目上の人に何う / 恩師に何う。
22	「汉语同义词词典」	着重于郑重地去见某人。有尊敬的态度色彩。对象多是“上级，长者，名人，同事，朋友”等。		丁寧に人を訪ねること。敬意を表す色彩がある。訪ねる相手は“上司，年長者，名人，同僚，友人”などの場合が多い。
23	「百度词典」	[pay a formal visit] 拜访会见 —— 从客人方面说是会见地位高或辈分高的人 汉英词典中的解释：.to pay a formal visit; to pay one's respects (to sb.)	拜见尊长。/ 拜见恩师（目上の人に何う / 恩師に何う）。	訪れて会见する —— 客から言えば、上位の人あるいは世代の高い人に何う。

【拜访】

注	用語	意味	用例	訳文
24	「中日大辞典第三版」	訪問する。→ 拜会		
25	「講談社中日辞典第三版」	動 敬 訪問する。お伺いする。	改天再去登门拜访	日を改めてご挨拶に伺います。
26	「現代汉语词典」	动 敬辞，访问；	～亲友（親友に何う）	表敬訪問する。

【拜会】

注	用語	意味	用例	訳文
27	「東方中国語辞典」	[動] 訪問し面会する；よく外交上の訪問に用いる。	我国駐联合国代表～了联合国秘书长	我が国の国連駐在代表が国連事務総長を訪問，会見を行った。

注	用語	意味	用例	訳文
28	『中日大辞典第三版』	表敬訪問する（多く外交上に用いる）。	[礼节性的~] → 拜访	礼儀的な訪問；
29	『新华词典』	拜访会见。登门相见，多用于外交上礼节性的会见。		表敬訪問する。お伺いする。多く外交上の礼儀的な会見に用いる。
30	『现代汉语词典』	动 拜访会见（今多用于外交上的正式访问）。		表敬訪問する（今は多く外交上の正式な訪問に用いる）。
31	『汉语同义词词典』	着重于庄重地礼节性地同别人会晤。有尊敬、客气的态度色彩。对象多是外国首脑，上层人士以及上级，名人，亲友，客人等。多用于正式的外交，社交场合。		丁寧に礼儀的に人を訪ねること。敬意的、遠慮がちである。訪ねる相手は外国首脳、上位の人及び上司、有名人、親友、客などの場合が多い。多く正式な外交、社交の場を使う。

注

- 『国語大辞典 言泉』第一版第九刷り発行（SHOGAKUKAN, 1989），P367。
- 柴田武 山田進編『類語辞典』第四刷り（Kodansha, 2003），P442。
- 松村明編『大辞林』第三版（三省堂，2006），P367。
- 北京・对外经济贸易大学，北京・商務印書館，小学館共同編集『日中辞典』（SHOGAKUKAN, 1987），P303。
- 相原茂 荒川清秀 大川完三郎主編『東方中国語辞典』（東方書店，2004），P585, P669。
- 『講談社中日辞典第三版』編集相原茂（講談社，2010），P739。
- 中国社会科学院語言研究所词典编辑室編『现代汉语词典』第5版（商务印书馆，2009），P611。
- 『汉语同义词词典』佟童君 梅立崇主編（商务印书馆国际有限公司，2002），P464。
- 『百度词典』<http://baike.baidu.com/view/754098.htm>
- 同「2」，P442。『類語辞典』
- 同「3」，P1403。『大辞林』
- 同「5」，P669。『東方中国語辞典』
- 同「6」，P835。『講談社中日辞典第三版』
- 同「7」，P693。『现代汉语词典』
- 同「8」，P464。『汉语同义词词典』
- 李曉琪等編『汉语常用词用法词典』第三版（北京大学出版社，2002），P341。
- 同「9」，『百度词典』
- 同「2」，P2203。『類語辞典』
- 同「4」，P1609。『日中辞典』
- 同「5」，P33。『東方中国語辞典』
- 同「7」，P32。『现代汉语词典』
- 同「8」，P464。『汉语同义词词典』
- 同「9」，『百度词典』
- 愛知大学中日大辞典編纂所編『中日大辞典第三版』（大修館書店，2010），P46。
- 同「6」，P38。『講談社中日辞典第三版』
- 同「7」，P32。『现代汉语词典』
- 同「5」，P33。『東方中国語辞典』
- 同「24」，P46。『中日大辞典第三版』
- 『新华词典』（商务印书馆，1980），P25。
- 同「7」，P32。『现代汉语词典』
- 同「8」，P464。『汉语同义词词典』

続いて、表1にて示した内容に基づき、「会见」の定義と用法を巡って、明らかになった次の2つの論点について考察する。

- 「会见」は基本的に名詞と目的語を伴う他動詞である。「～（副詞）+

「会見」の場合には自動詞的にも見えるが、その際には現在形でしか使えないため、実際には動詞として機能していない。

中国語の「会见」は「跟别人相见（他の人と会う）」（『現代汉语词典』）、「着重于彼此相约而见面（主に相互約束の対面）」（『汉语同义词词典』）を意味し、「人と会うこと」（『大辞林』）、「人に会うこと」（『国語大辞典 言泉』）という日本語の「会見」と同様、名詞であり動詞でもあるが、他動詞、自動詞のどちらであるという明記はない。にもかかわらず、「元首に～する」（例1）、「首相が記者会団と～する」（例2）、「両国の代表が～する」（例3）という、他動詞でも自動詞でも「自由自在」な日本語の用例では、それぞれ中国語に訳すと、例1、例2とも「会见」は目的語を持つ他動詞となって「会见元首」、「首相会见记者代表团」となる。例3は「两国代表会见」となり、「会见」は目的語を持たず、名詞とも読み取ることができ、自動詞かどうかは無関係となる。

「跟别人相见」（『百度词典』）という「会见」の意味解釈、また例6, 7, 9「总统～三国大使」、「～亲友」、「会见一位朋友」などの用例からも、中国語の「会见」は通常は明らかに目的語を伴う他動詞であると理解できる。特に英語訳「to meet with; to have an interview with; to interview」（『百度词典』）が「会见」の他動詞的な用法を明瞭に示している。

では例5「两国总理第一次在北京～」と「两国总理在联合国亲切～」をどう理解すべきか。「第一次在北京（初めて北京で）」、「在联合国亲切（国連で親しく）」との副詞的表現があるため、この場合の「会见」は名詞とは読み取れず、動詞と読まれるべきである。しかし、「会见」の当事者が双方とも主語になっており、目的語がないので、「副詞＋会见」という自動詞的な形であっても動詞としての機能はほとんどなく、実際には名詞と理解してもおかしくない。2例が現在形であることから、一般的な動詞としての機能に欠けることが裏付けられている。もしこれらの例文が完了形であれば、「会见」は名詞的な状態から完全に目的語の必要な動詞、他動詞となり、「A 总理第

一次在北京～了B 总理」となる。しかし「会见」の主体者双方が主語のままであることはできず、「A 総理が初めて北京でB 総理と～した」というように、「会见+了」の後ろにあるはずの目的語がないと、はなはだ不自然な形態となる。翻って現在形であるならば、「会见」は自動詞的、あるいは依然として名詞に見えるのみならず、文のニュアンスも儀式の動的な実現より、静的な状況の伝達が際立ってくる。したがって、「两国总理第一次在北京～了」、「两国总理在联合国亲切～了」という使い方は不可能である。言い換えれば「会见」する当事者双方とも主語になる場合は、完了形は使えない。

おもしろいのはこの2例の日本語訳が用語および時制を使い分けていることだ。それぞれ、「两国総理は北京において初めて顔を合わせる」、「两国の総理は国連で親しく会見した」となっている。この使い分けは決して偶然ではない。前者の「…北京において初めて顔を合わせる」は原文の現在形を忠実に反映しているが、「顔を合わせる」は自動詞となっている。「顔を合わせる」に相当する中国語の「会面」も「会+面」、「動詞+名詞」と捉えられることからわかるように、同じ自動詞なのである。「会面」は原文の「会见」ほど「公式」でもなければ、儀礼的でもない。にもかかわらず、あえて「会面」並みの「顔を合わせる」と訳されているのは、現在形のせいではないかと推察される。総じてこの訳文は、「…北京において初めて会見する」という意味の原文の用語や現在形を直訳しているともできなくはないが、ここにおいては「会见」という儀式そのものより、背景である「北京において」や「初めて顔を合わせる」というムードが、より強い印象として伝わる表現となっている。

「两国の総理は国連で親しく会見した」というもう一例の日本語訳は、とても自然に感じられる。しかし、もしこの例の完了形の訳文も原文の中国語のように、現在形で「两国の総理は国連で親しく会見する」と置き換えてみると、また違和感が生じる。まだ実現されていないのに、「親しく」という予言はおかしいからだ。日本語の「会见」は、「会見した」という完了形であれば「北京において初めて」、「国連で親しく」などのどのような副詞と組

み合わせても、まったく問題にならない。しかし、「副詞+会見する(現在形)」の場合には条件がある。使用される副詞が時間や場所を表すものなら問題ないが、「親しく」というような修飾的な副詞であれば、「会見する(現在形)」とは結びつくことができない。すなわち、日本語の「会見」は名詞であり、なおかつ自・他動詞として使われる変幻自在・自由自在な存在であるが、上述のように一部分の副詞に邪魔をされると、完全な自動詞としては成り立たない時がある。

裏返して見れば、中国語の「会見」は自動詞ではないものの、逆に副詞の「助け」を借りて完了形を使わなければ、本来の他動詞から目的語を持たない自動詞へ一時的な変身ができるとも言えよう。言葉を換えれば、中国語の「会見」は目的語を伴わずに自動詞的に使える時は現在形の場合に限り、完了形の場合では使えない。日本語の「会見」は他動詞でも自動詞でも広く応用できるが、修飾的な副詞があると現在形としては使えなくなる。このように中国語と日本語では用法が微妙に食い違っている。「习近平与日本天皇会见」は違和感がなく、「日本天皇明仁 15 日上午在东京皇宫…与中国国家副主席习近平会见」は不自然に感じる。それは前者は副詞がないので名詞と読み取れ、後者は「15 日上午在东京皇宫…」などの時間語、場所語があるため、そのままの語順では成立しない。「国家副主席习近平 15 日在北京日本皇宫会见了日本天皇明仁」というように、他動詞的に処理するしかないのではないだろうか。

中国語の「会見」は基本的に名詞、あるいは目的語をとともう他動詞だが、副詞などがあると、目的語がなくても一時的に自動詞的になることもできる。だがそのとき「会見」はあくまでも現在形で、「会見了」という完了形では使えない。一方、日本語の「会見」は名詞、自他動詞ではあるが、たとえば「親しく」などというような修飾的な副詞があると、「会見する」という現在形では使えない時がある。「会見した」という完了形ではどの場合にも使える。

2 公式外交の報道上の表現において、会見当事者双方の立場を明らかに

する「接見」,「拜見・拜访・拜会」の代わりに,「会见」1語で間に合うこともできるが,その際,普通は「上位/ホスト会见下位/ゲスト」という語順でなければならない。

「会见」の応用範囲について,日本の国語,日中辞書では「公式の場合」(『国語大辞典 言泉』),「多く外交の場で」(『日中辞典』),「主に外交において地位が同等な人同士の改まった会见をさす」(『東方中国語辞典』)というように,「公式に」,「外交に」が強調されている。これに対して,中国語辞書では,「有用于外交场合(外交の場で使う時もある)」(『百度词典』)という程度の解釈にとどまり,むしろ,「接見」及び「拜見・拜访・拜会」では集中的に言及されている。

「接見」は,「多用于外交场合(多く外交の場に使う)」(『汉语常用词用法词典』),「在正式场合(正式な場で)」(『百度词典』),しかも「地位高者跟来访者见面(地位の高い人が訪問者に会うこと)」(『汉语常用词用法词典』),「多用于主人接待客人或上级会见下属(多くはホストがゲストを迎え,或いは上位の人が下位の人に会見する場合に使う)」(『现代汉语词典』),「会见级别较低的来访者(クラスの比較的低い来訪者に会見すること)」(『百度词典』),「着重于接受对方求见的要求而与之见面。…接见者多为领导,被接见者的地位,辈分多比接见者低,或是来访问的人(主に相手から要望される会見を指す。…接見者は多く指導者であり,被接見者の地位,世代は多く接見者より低く,あるいは来訪客である)」(『汉语同义词词典』),と細かく取り上げている。

「拜見・拜访・拜会」については,「多用于外交上礼节性的会见(外交上の礼儀的な会見に多く用いる)」(『新华词典』),「今多用于外交上的正式访问(今は外交上の正式な訪問に多く用いる)」(『现代汉语词典』),「多用于正式的外交,社交场合(多く正式な外交,社交の場に使う)」(『汉语同义词词典』)と敬意を表す正式な面会を指すことを指摘しているだけではなく,「着重于庄重地礼节性地同别人会晤。有尊敬,客气的态度色彩。对象多是外国首脑,上层人士以及上级,名人,亲友,客人等(丁重に礼儀的に人を訪ねること。敬

意的、遠慮がちである。訪ねる相手は外国首脳、上位の人及び上司、有名人、親友、客などの場合が多い) (『汉语同义词词典』) と会見当事者双方の立場も明確に示唆している。

日本の辞書でも「接見」と「表敬」については、「公の立場」(『大辞林』)、「外交において」(『東方中国語辞典』)、「多く外交上に用いる」(『中日大辞典第三版』)と記述し、中国語の解釈をする際、「会见」は「主に外交において地位が同等な人同士の改まった会見を表」し、「接見」は、「一般に地位の上の者が下の者に会うことを指す」(『東方中国語辞典』)と、両語の使い分けについても明言している。

これらの主旨に基づいて、また用例を見てみよう。例4「総理が代表団と～する」は主語と目的語、会見者と被会見者のあるケースと見てよい。日本語では依然として「会见」を使っているが、中国語訳は「总理接見代表团」となっている。「上級会见下属(上位の人が下位の人に会见する)」という場合なのだから当然である。

ホストとゲストに関する例は、「会见」には例7「～亲友(親しい友人)」という程度のものしかない。その代わりに、「接見」、「拜会」には何例もある。例10、「首相が新任の大使に接見する」、例11「大統領が外国大使を接見する」、例13「接見外賓(外国の客を接見する)」、例27「我国驻联合国代表拜会了联合国秘书长(我が国の国連駐在代表が国連事務総長を訪問、会見を行った)」。この例27の中国語「拜会」について、日本語は「表敬訪問」ではなく、「訪問、会見を行った」と訳されている。日本語の「会见」の方が、中国語の「会见」より幅が広いと思われ、各用語の使い分けについては、中国語の方がよりデリケートのようにも感じられる。

しかし、「会见」の関係者については、「不分会见者和被会见者。会见的双方多为地位，辈分相同的人，也可以地位，辈分不同。不用于被动句(会見者と被会見者と分けない。会見双方は地位，世代が同等な場合が多いが，地位，世代が同等でない場合でもよい。受身は使わない)」(『汉语同义词词典』)という注釈もある。「会見者と被会見者と分けない」のはどんな場合だろうか。

これは例5「两国总理第一次在北京～」、「两国总理在联合国亲切～」のケースに思い当たる。「双方」あるいは「A 総理と B 総理」が主語となる「会见」は、文字通りに彼我、上下、主客の分けない対等な「会见者」同士の「会见」ではないだろうか。

一つだけやや異色の用例もある。例8の中国の詩人臧克家が周恩来総理を偲んだ《会面无多忆念多（対面少なし、思念多し）》という作品からの引用だ。「（我）也没单独会见过总理。但是总理对文艺工作的关怀，指导，我是知道的（私も単独して総理にお会いしたことはないが、文芸界に寄せる総理のお心遣い、お教ををよく心得ている）」。もちろん周恩来総理より臧克家は下位の者だ。しかしこの文の「会见」は「外交儀式」の堅い表現ではなく、「会う」という日常的な表現と読み取れる。あえて同等そうに見える「会见」という表現を通して、総理を偲ぶ詩人の素朴な気持ちと総理の親しみやすい人柄とがともに伝わってくる効果がある。さらに、「会见过」というように、「会见」より「见过」という経験の表現が突出した効果を上げている。

だが、「客人会见主人」、すなわちゲストがホストに「会见」という例はどの辞書にも見当たらない。一方で、ネット上の『百度词典』の解釈にも注目したい。「会见」の「概念」については、「国际上一般称接见或拜会。凡身份高的人士会见身份低的，或是主人会见客人，这种会见一般称为接见或召见。凡身份低的人士会见身份高的人士，或是客人会见主人，这种会见一般称为拜见。我国一般统称会见（国際舞台では一般的に接見あるいは表敬訪問という。身分の高い人が身分の低い人に会う、あるいはホストがゲストに会う、このような会見は一般的に接見あるいは引見という。身分の低い人が身分の高い人に会う、或いはゲストがホストに会う、このような会見は一般的に拝見という。我が国は一般的に総じて会见という）」と、前列の各辞書での定義とは乖離している。この「概念」を借用すれば、本稿の疑問がすべて解消される。

ただし、用例では特にこの「概念」を反映していない。例12「安排在点钟会见一位朋友（2時に友人に会うことになっている）」、「国家主席杨尚

昆今天晚上在人民大会堂会见了布什总统（国家主席楊尚昆が今晚人民大会堂でブッシュ大統領と会見した）」となっている。友人の場合も大統領の場合も「会見」を兼用しているのは、場面で分けられないことは証明しているといえるが、「ゲストがホストに」対する「会見」の例にはならない。例文の中の当事者の身分の比較から検証しても、「会見」の場所が中国なので、中国最高の指導者ではない「国家主席楊尚昆」が「会見」の動作主を務めても理に適っているといえる。しかし、正に中国の検索エンジン最大手であるこの『百度词典』の解釈が、昨今の新しい「概念」の変化をいち早く反映している可能性もあり、この傾向を注意して見ていく必要がある。

本稿で調べてきた各辞書の定義と用法から、次のような結論が得られよう。公式外交上の中国語表現「会見」においては、明らかに上位と下位、ホストとゲストなどに当事者が区分けされる場合、上位やホストの側から表現すれば「接見」、その逆であれば「拜見・拜访・拜会」を使用する方がより妥当である。同列あるいはそれほど違わない立場、地位、または公式外交上の場合も含めて、すべて「会見」という表現で統合して代用することもできるが、その際、上位の人、ホストなどを主語に、下位の人、ゲストなどを目的語にすべきである。会見場所によっては、その逆の場合もないとは言えない。そして双方にとって第三国での「会見」の場合は、自国側を主語にする。

この結論に基づいて、「会見」及びその関連用語の「接見、拜見・拜访・拜会 / 会見、接見、表敬訪問」の使用パターンを次の表にまとめて示す。

表2 「会見」等の動詞使用パターン

「会見」には、以下の場合の使用は問題無しとして掲載をしない。名詞的な場合、明らかに上位の人、ホストが、下位の人、またはゲストと会う場合、及び単数が多数に会う場合。
日本語のパターンには、～の後に「する」、「した」のない場合は「する」、「した」という現在形と完了形の両方とも使える。
双方は会見者同士。AとBは同列。「双方/AとBが～する」の場合、両国の代表（双方）が～する、中国の代表と日本の代表が～する、となる。

パターン	用語（～部分に該当）			説明	
	会見	接見	拜見・拜访・拜会		
	会見	接見	表敬訪問		
双方/AとB～	中国語	○	×	×	中国語の「会見」の他動詞であることと、日本語

パターン		用語（～部分に該当）			説明	
		会见	接見	拜見・拜访・拜会		
		会见	接見	表敬訪問		
双方/AとBが～する	日本語	○	×	×	の「会见」の自動詞でもなれる特徴を裏付けている。	
双方/AとB～了	中国語	×	×	×		
双方/AとBが～した	日本語	○	×	×		
双方/AとB（副詞）～	中国語	○	×	×	副詞があると、自動詞的に見えてしまう「会见」は実に名詞にも読み取れ、「○」だが、完了形であると、自動詞にしか見えなくなり、「×」になる。一方「会见」も副詞があると動詞になりきってしまうが、副詞的な時間語、場所語であれば「会见する」は使えるが、「親しく」などのような修飾的な副詞であれば名詞的に読みとれなくなるため、「×」で、「△」で示している。「会见した」という完了形では動作性をはっきりあらわしているため、どんな副詞でも「○」になる。	
双方/AとBが(副詞)～する	日本語	△	×	×		
双方/AとB（副詞）～了	中国語	×	×	×		
双方/AとBが(副詞)～した	日本語	○	×	×		
上方在対方地～下方	中国語	○	○/△	×		「会见/会见」が一番無難だ。地位等が明らかに違えば、「接見/接見」でも「○」だが、単なる彼我によっては「△」だ。
上位の人が相手の地で下位の人に～	日本語	○	○/△	×		
客方在对方地～主方	中国語	×	×	○		
ゲストが相手の地でホストに～	日本語	×	×	○		
下方在本地～上方	中国語	△	×	○	「△」は礼儀に欠けているが、一応自国なので、ホストとも考えられ、容認できる。	
下位の人が自国で上位の人に～	日本語	△	×	○		
我方在他地～彼方	中国語	○	△	△	自国中心の表現でよい。「△」は、相手の滞在先に出向き、或いはこちらの滞在先で迎えるなどの場合によって、用語が違う筈だが、依然自国中心であっても容認。	
自国の人が第三国で相手国の人に～	日本語	○	△	△		

したがって、本稿で疑問に思う先頭の記事については、「…接受対方求見的要求而与之见面。…被接見者的地位，辈分多比接見者低，或是来访问的人（…相手から要望される会见…，被接見者の地位，世代は…接見者より低く，あるいは来訪客である）」（『汉语同义词词典』）という定義に基づけば、地位や世代の差を考慮せず、また「接見」ではなく「会见」を使っても、「日本天皇明仁15日在东京日本皇宮会见了国家副主席习近平」とされるのが合理的であった。

中国は70年代の末から改革開放の道に歩みだして以来、経済は大きく成長し、人々の生活も向上してきた。その中で中国の対外交流における実績の積み重ねに伴い、相互の立場を見極めて配慮した「接見」「拜会」よりも、「一

般的に総じて」いう「会見」を使う方が自然の成り行きであるかもしれない。互いに形式張るのではなく、双方とも肩の凝らない自然な交流体である。それは決して悪い成り行きではない。ただし、ホストに敬意を示す基本的な礼儀を忘れてはいけない。礼儀正しさは必ずしもへつらいを意味せず、自分を卑しめるところか、相手に誠意を伝えることに通ずる。もしも成り行きに流されて、主語、目的語を入れ違い、主客転倒の結果に繋がってしまったなら残念である。

中国はこのところ、平和的発展の道、すなわち世界平和を維持しながら自ら発展する道を歩むと内外に表明している。礼儀こそ平和の第一手段として互いの不信感を取り除き、平和の道を歩もうとする真心な姿勢を伝えるのに重要な役割と影響力を持つのではないだろうか。

以上のように、「会見」を中心に関連用語の辞書的な定義と使用パターンを確認してきた。これからさらに『人民日報』における用語ごとの事例調査を通して、「会見」という表現の変移とその変移の妥当性を探っていきたい。